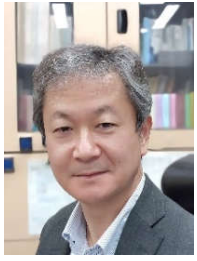


電波政策の最新動向 13:35~14:25

本講演では、我が国における5Gの普及・展開の状況、ローカル5Gの活用の実態、無線LANの高度化に関する議論状況、衛星コンステレーションやHAPS等の非地上系ネットワーク（NTN）の導入のための制度検討の状況など、無線通信に関連する最新の技術動向や政策動向についてご紹介させていただく予定です。



総務省 総合通信基盤局電波部長 荻原 直彦 様

1992年に郵政省入省。衛星・地域放送課技術企画官、電波利用料企画室長、研究推進室長、電気通信技術システム課長、移動通信課長、放送技術課長、電波政策課長を経て2023年7月から現職。

5G evolution and 6G 14:25~15:10

5Gのさらなる高度化を目指した研究開発および国際標準化が進められている。国内では5Gのミリ波の普及推進に対する期待が高まっている。さらに6Gに向けた検討も国内外で精力的に進められており、NTTドコモとしても、5Gのさらなる高度化と6Gに関する検討を精力的に進めている。本講演ではNTTドコモのミリ波の活用含む5Gの高度化と6Gに関するコンセプトや最新の取り組みについて説明する。



株式会社NTTドコモ CSO 中村 武宏 様

1990年 横浜国立大学 修士卒。1990年 NTT入社。1992年より、NTT DOCOMOにてW-CDMA, HSPA, LTE/LTE-Advanced, 5G, 5G evolution & 6Gの研究開発および標準化に従事。(株)NTTドコモ執行役員を経て現在、(株)NTTドコモチーフスタンダーダイレクション オフィサー。

1997年より国内外での移動通信システム標準化活動に参加。1999年より、3GPPでの標準化に参加し、2005-2013年3GPP TSG-RAN 副議長および議長を歴任。現在、5G モバイル推進フォーラム企画委員会委員長代理およびミリ波普及推進アドホック主査、ITS 情報通信システム推進会議 高度化専門委員会 セルラーシステム TG 主査、Beyond 5G 推進コンソーシアム 白書分科会主査、5G-ACIA Board memberとして、標準化活動および業界間連携強化に従事。

コネクテッドカーの進化とソフトウェアデファインドビークル 15:25~16:10

自動車およびモビリティ業界は100年に一度の大変革期と言われている中で、クルマが無線通信で繋がっていることが当たり前になりつつあり、コネクテッドカーはその大変革のプラットフォームともなっている。本講演ではコネクテッドカーとそのサービスの進化を述べるとともに、コネクテッドが支えるクルマの進化の形としてのソフトウェアデファインドビークルについて論じる。



日産自動車株式会社 コネクティッドカー&サービス技術開発本部 コネクティッドカーオフボード開発&オペレーション部 部長 村松 寿郎 様

東北大学大学院電気及び通信工学専攻終了後、1991年日産自動車に入社。中央研究所(現 総合研究所)にて車載レーダー、車載マルチメディア・無線インタフェース、EVの価値創造、デジタルラジオでのサービス、コネクティッドカーの研究などに従事。その間に米国カリフォルニア州にて業務研修を1年、米国ミシガン州のNissan Technical Center North Americaに3年間の出向を経験。2011年にコネクティッドカー&サービスのビジネスユニットにて企画・デザインを行い、先行検討チーム立ち上げのため米国シリコンバレーに2年8ヶ月駐在。2016年4月からコネクティッドカー&サービス開発部 主管に着任し、コネクティッドカー&自動運転事業本部を兼務、2017年5月からAD&ADAS開発部を兼務。2019年7月からコネクティッド技術開発&サービスオペレーション部 部長、2023年4月からコネクティッドカーオフボード開発&オペレーション部 部長として、コネクティッドカー&サービスのクラウドシステム、Mobile APPの開発及びオペレーション、サイバーセキュリティ等に従事し現在に至る。

通信後進国からの再起 16:10~17:00

「通信後進国ニッポン 『5G敗戦』から再起せよ」、日経ビジネス2023年4月24日号のタイトルである。通信後進国の局面においては、従来行ってきたやり方ではなく、これまでとは異なる主体や多様な人材の未知の組み合わせなど、新たな試みを模索していくしかない。幸いなことに「業界連携」「ミリ波」「ゲームチェンジ」などの新しい流れが存在する。この流れをうまく活かして試行錯誤し続けるしかない。

われわれを取り巻く環境は容赦なく変わり続けている。イノベーションのあり方や価値獲得のあり方も変わった。背景には経済の無形資産化がある。独り占めすることができない無形資産の時代には、遍在するテトリスのパーツを目利きし、回転させてつなげることで大きな価値が生まれる。デジタルがさらにステークホルダーを増大させつつあるため、関わるすべてに共感し、つないで巻き込んでいかなければいけない。

「無形資産時代の価値獲得」「テトリス型経営で競争優位に立つ」「気づきにつながるタスク型ダイバーシティ」といった視点も未来にバトンを渡すための鍵となることを示す。



東京大学大学院工学系研究科教授 森川 博之 様

1987年東京大学工学部電子工学科卒業。1992年同大学院博士課程修了。2006年東京大学大学院教授。音声認識、画像符号化、コンピュータビジョン分野から研究活動を開始し、無線通信システム、電波応用システム、新世代インターネット、光ネットワーク、ユビキタスネットワークなどに取り組み、現在はモノのインターネット/ビッグデータ/DX、6G、クラウドロボティクス、情報社会デザインなどの研究に従事。

電子情報通信学会論文賞(3回)、情報処理学会論文賞、情報通信学会論文賞、ドコモモバイルサイエンス賞、総務大臣表彰、志田林三郎賞、情報通信功績賞、大川出版賞などを受賞。

総務省情報通信審議会情報通信政策部会部会長/電気通信事業政策部会部会長、情報通信ネットワーク産業協会(CIAJ)会長、ブロードバンドワイヤレスフォーラム会長、Beyond 5G 新経営戦略センター長、5G 利活用型社会デザイン推進コンソーシアム座長、シブヤ・スマートシティ推進機構会長、電力データ管理協会代表理事、スマートレジリエンスネットワーク代表幹事、情報社会デザイン協会代表理事、電子情報通信学会会長などを務めながら、「ICTを成長戦略の第一目一番地に」「ICTで地方を元気に」するために尽力している。2002~2007年情報通信研究機構モバイルネットワークグループリーダー。2012~2017年経済協力開発機構(OECD)デジタル経済政策委員会(CDEP)副議長。著書に「データ・ドリブン・エコノミー(ダイヤモンド社)」「5G次世代移動通信規格の可能性(岩波新書)」など。